

オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会
(第25期・第2回)

議事録

1. 日時 令和3年3月1日(月) 13:30-15:30

2. 会場 オンライン開催(WebEx)

出席者(五十音順、敬称略): 秋葉 澄伯、安達 淳、大橋 弘美、大向 一輝、
木部 暢子、喜連川 優、小林 武彦、三枝 信子、宍戸 常寿、澁澤 栄、
高木 利久、筑本 知子、寺崎 浩子、永井 由佳里、西田 眞也、
仁科 弘重、林 和弘、引原 隆士、菱田 公一、藤原 康弘、溝端 佐登史

オブザーバ参加: 赤池 伸一(内閣府)、山地 一禎(NII)

3. 議題

- (1) 前回議事録確認
- (2) 追加委員の紹介
- (3) 役員(副委員長、幹事)の指名
- (4) オープンサイエンスに関する意見交換
- (5) その他

4. 配布資料

資料1 第1回検討委員会議事録

資料2 委員名簿(追加委員を含む)

資料3 「科学技術・イノベーション基本計画について(答申案)(概要)」

5. 議事

- (1) (前回議事録の確認) 前回の議事録案を承認した。
- (2) (委員の紹介) 追加された8人の委員の紹介と各委員の自己紹介があった。
- (3) (副委員長および幹事の指名) 委員長から副委員長として引原委員が指名された。また、幹事に三枝委員と林委員が指名された。
- (4) (オープンサイエンスに関する意見交換) 内閣府による科学技術・イノベーション基本計画の答申について、赤池参事官より説明があった。あるべき姿として、研究データの「共有」という考え方が重要であることなどが述べられた。また、政府として、公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方を今年度中に策定する予定であることについても説明があった。

質疑としては、この分野はこのようなデザインでデータを集めるといった方針について検討はなされているかという質問に対し、現時点ではそこまで進んでおらず、どこにどのようなデータがあるかという情報を集めている段階であるという回答があった。また、研究データのオープン化については CISTI と学術会議が両輪として進める必要があり、中長期的視点を必要とする人材育成なども含めてぜひ幅広く議論してほしいといったコメントがあった。

続いて、喜連川委員長より第 24 期にまとめられた提言「オープンサイエンスの深化と推進に向けて」（<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t291-1.pdf>）の内容について説明があった。

- (5) （その他） 次回以降の委員会の進め方について喜連川委員長より提案があり、人文社会系（I 部）と生命・理工学系（II 部・III 部）の両方からの話題提供をいただきたいという説明があった。特に、喫緊の課題である CIVID-19 に関連して、公衆衛生学（疫学）や言語学（コミュニケーション）の立場からの話題提供の検討を（秋葉委員や木部委員に）依頼した。そのほか、様々な学問分野におけるオープンサイエンス化の状況について意見交換を行った活用すること、学術フォーラムにも積極的に対応していくことが確認された。

以上